

シグマ研究委員会
5年度第1回放射化断面積WG会合議事録

日時： 1993年9月16日（木） 13:30～17:30
場所： 日本原子力研究所本部 第2会議室
出席者： 岩崎信（東北大）、浅見哲夫（データ工学）、渡部隆（川重）、
山室信弘（東工大）、八谷雅典（データ工学）、池田裕二郎、
中島豊（以上原研）

配布資料

1. D-T核融合中性子スペクトル場におけるJENDL放射化断面積の積分テスト（池田）
2. IAEA Co-ordinated Research Programme on "Establishment of an International Reference Data Library of Nuclear Activation Cross Sections"

議事

1. JENDL放射化断面積データの積分テスト結果

- (1) FNSで測定した実験データを用いて行ったJENDL放射化断面積データの積分テストの結果を池田氏が報告した。テストした核種はAl, Si, Ti, V, Cr, Mn, Fe, Co, Ni, Cuで、他のライブラリーのデータに比べると、JENDLが最も妥当な結果を与えることが示された。
- (2) しかし、C/E値が1から大きく離れているデータもあるので、それらの反応のリストを池田氏が作成し、WGのメンバーに配布することにした。このリストに基づいて評価担当者が再評価などの適切な処置をすることにした。
- (3) またJENDL放射化断面積ファイルに収録されている反応のリストを中島氏が作成して、10月中旬までにWGメンバーに配布することにした。
- (4) 次回会合にはZn, Zr, Mo, Ag, Sn, Ta, W, Pbの結果について報告してもらうことにした。

2. IAEAのInternational Reference Data Library of Nuclear Activation Cross Sections 作成のための協力研究計画について

IAEAから提案されている上記研究協力計画への対応について検討し、WGとして積極的に取り組むこととした。

3. その他

次回のWG会合は核データ研究会までに開催する。